

村櫨の 現代 しっくい

Murakashi's Modern Stucco

施工要領書

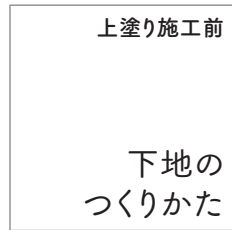
標準仕様

ベース	スムーズ	ソフト	カジュアル
入れ目(kg)	20	22	25
塗り厚(mm)	1	1.2 ~ 1.5	1.5
塗り面積(m ²)	10	10	8

YouTubeチャンネルで
「村櫨の現代しっくい 施工要領」を公開中!

村櫨しっくい
channel
YouTube





よりよい塗り仕上げの基本は、下地となる石膏ボードが動かないようしっかりと固定されていることです。

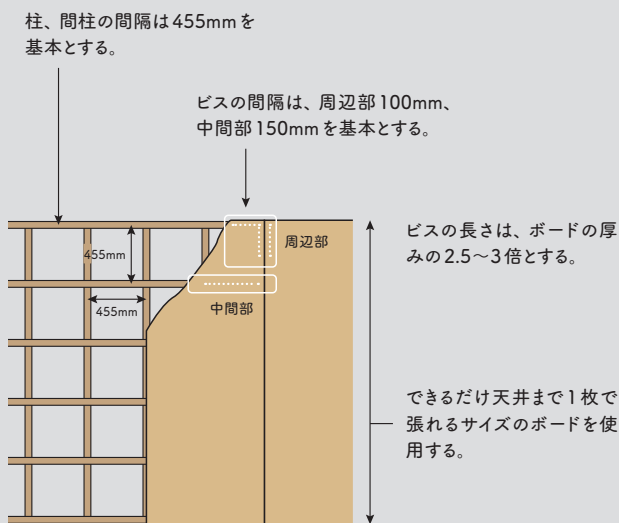
内装塗り仕上げのための 石膏ボード下地のづくりかた

【注意事項】

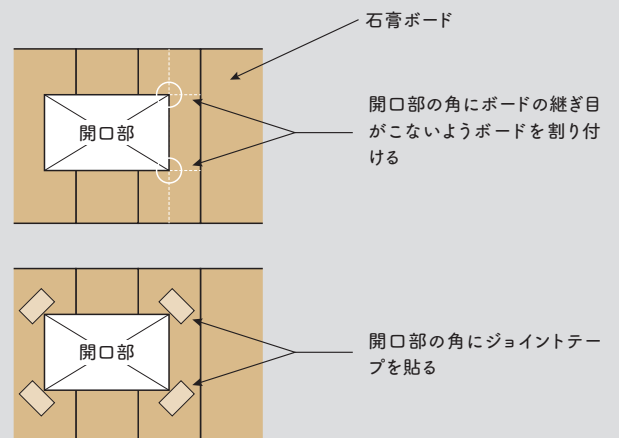
- ボードを継ぎ足す際は、必ず受け木の上で行ってください。
- ボードの天地が足りない場合は必ず受け木の上で継ぎ足し、横継ぎ手も釘止めしてください。
- 横受け木がない場合は必ず天地方向を1枚のボードで仕上げ、横継ぎ手をつくらないようにします。
- 天井部は、千鳥張りでの施工を推奨します。
- 石膏ボード用ビス(梨地頭)は、ステンレス鋼製、亜鉛メッキ製など防せい処理されたものを使用してください。
- ビスを打ち込む際は、強く打ちすぎてビス頭がボード表面からめり込まないようにしてください(機械打ち注意)。
- ドア、窓枠等、開口部の角にボードの継ぎ目をつくらないようにしてください。

2

木造下地組みにおける石膏ボードの割り付け方、張り方



開口部まわりの処理方法





『石膏ボード下地』 (ベベルボード・平ボード等)の場合



1 下地の確認

石膏ボードはステンレス、もしくは亜鉛メッキの専用ビスで十分固定されていることを確認してください。

2 下地処理の前に

見切り、廻り縁、柱、床などを汚さないために、マスキングテープで養生してください。

3 目地処理

- ① ボードジョイント部に〈MK目地材〉を埋め込んでください。その際、ジョイント部が盛り上がらないよう余分な材料はかき取ってください。埋め込んだ目地材の上から、ジョイントテープをたるまないように貼り付けてください。
- ② 入隅・出隅にジョイントテープを貼り付けます(ジョイントテープは幅50mmのものが一般的ですが、面拘束力が大きくなる幅100mmや幅150mmの幅広タイプを推奨します)。
- ③ ボード固定用のビス穴にも〈MK目地材〉を埋め込んでください。

乾燥養生(しっかり乾燥させてから次の工程に進んでください)

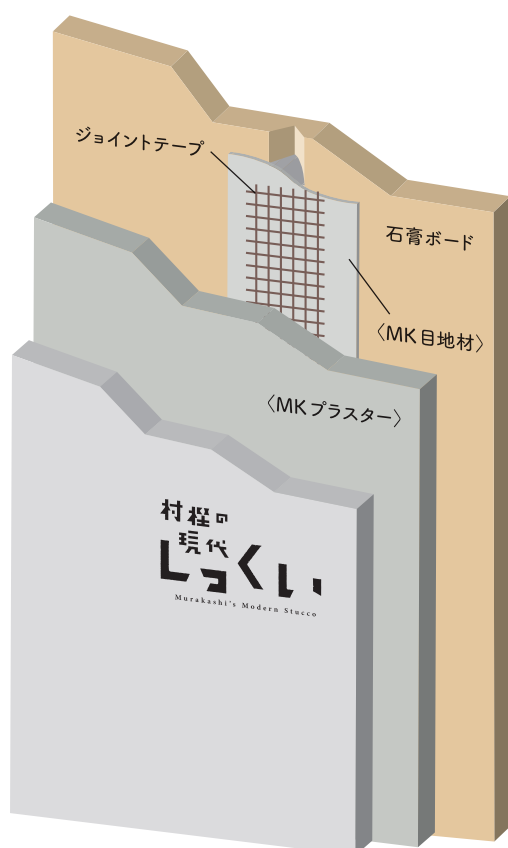
4 下地処理

〈MKプラスター〉を全面に塗り付け、鋳むらを取り平滑に仕上げてください(塗り厚は1mm厚程度)。

乾燥養生(しっかり乾燥させてから次の工程に進んでください。中1日置いた方が吸水がよくなります)

5 上塗り施工

- ① 〈MKプラスター〉のバリ(凸部)や塗り残しが無いことを確認してください。
- ② 〈村様の現代しゅくい〉を適量鋳板に取り、一度しごき塗り後、追っかけで所定の厚みに塗り付けてください。



[パターン仕上げ]

塗り付け直後もしくは配り塗りしながら、パターン付けを行ってください。

□ラスボード下地の場合は当社までお問い合わせください。

施工手順

新築

『コンクリート・モルタル下地』 の場合

1 下地の確認

2 下地処理の前に

完全乾燥

3 下地処理

完全乾燥

4 上塗り施工

1 下地の確認

レイトンス・ジャンカ・不陸・クラックなどが無いことを確認してください。

2 下地処理の前に

①レイトンスは除去してください。

②ジャンカ・不陸・クラック等は、市販の補修材で調整し乾燥させてください。

3 下地処理

①見切り、廻り縁、柱、床などを汚さないために、マスキングテープで養生してください。

②気温が高い夏季は、〈MKプラスター〉を施工する前に、〈フジプライマー F45〉※3倍液を塗布してください（塗布量：90～120g/m²）。

③〈MKプラスター〉を全面に塗り付け、鏝むらを取り平滑に仕上げてください（塗り厚は1mm程度）。

ドライアウトを起こす可能性があるので、強風及び直射日光が当たらないようシート養生をしてください。

乾燥養生（しっかり乾燥させてから次の工程に進んでください。中1日置いた方が吸水がよくなります）

4 上塗り施工

①〈MKプラスター〉のバリ（凸部）や塗り残しが無いことを確認してください。

②〈村檜の現代しゅくい〉を適量鏝板に取り、一度しごき塗り後、追っかけで所定の厚みに塗り付けてください。

4 ※〈フジプライマー F45〉は村檜石灰の商品です。



〔パターン仕上げ〕

塗り付け直後もしくは配り塗りしながら、パターン付けを行ってください。

『既存ビニールクロス下地』 の場合

1 下地の確認

2 下地処理の前に

完全乾燥

3 下地処理

完全乾燥

4 上塗り施工



1 下地の確認

①クロス面に付いた埃は刷毛やブラシで落とします。汚れている箇所は中性洗剤で拭き掃除を行ってください。クロスの表面にカビが発生している場合、石膏ボードまでカビが及んでいる可能性が高いため施工できません。キッチン周りの油が付着しているクロスには施工できません。

②ビニールクロスはある程度状態の良いことが前提です。可塑剤が抜けて劣化している(パリパリになっている)クロスには施工できません。

なお、ビニールクロス以外の布クロス・紙クロスのような吸水性のクロスは、接着不良を起こすので施工できません。

□既存クロスでの施工が不可能な場合、石膏ボードを張替えることで新築同様の施工が可能となります。

2 下地処理の前に

①クロスに浮き、はがれのある箇所はカッターで除去し、補強のためジョイントテープを貼り付けます。クロスの継ぎ目にも、補強のためジョイントテープを貼り付けます(ジョイントテープは幅50mmのものが一般的ですが、面拘束力が大きくなる幅100mmや幅150mmの幅広タイプを推奨します)。

②さらに下地強化のため、①で補強した箇所、およびビニールクロス周辺部へのステープル留めを推奨します(ステープルはステンレス製、または亜鉛メッキ製を使用してください)。

③見切り、廻り縁、柱、床などを汚さないために、マスキングテープで養生してください。

3 下地処理

〈MKプラスター プラス〉を全面に塗り付け、鏝むらを取り平滑に仕上げます。(塗り厚は1mm程度)

□〈MKプラスター プラス〉にはアク・シミ止め機能があるため、アク止めシーラー塗布は必要ありません。

乾燥養生(しっかり乾燥させてから次の工程に進んでください。中1日置いた方が吸水がよくなります)

4 上塗り施工

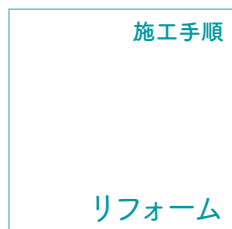
〈MKプラスター プラス〉が完全乾燥後、バリ(凸部)や塗り残しが無いことを確認してください。

〈村桎の現代しゅくい〉を適量鏝板に取り、一度しごき塗り後、追っかけで所定の厚みに塗り付けます。

□〈村桎の現代しゅくい〉を塗り付け直後、塗膜に気泡が発生することがあります(クロス下地の場合、下地処理材に含まれる空気としゅくいの水分が置換するため)。発生した気泡をそのままにしますと仕上げに影響を及ぼしますので、気泡に鏝の角などを当てるなどして空気を抜く要領で潰してください。

[パターン仕上げ]

塗り付け直後もしくは配り塗りしながら、パターン付けを行ってください。



『既存しっくい下地』 の場合



1 下地の確認

- ①既存しっくいの強度を確認してください。
- ②はがれ、浮きを確認してください。
- ③埃、油污れの有無を確認してください。

2 下地処理の前に

- ①見切り、廻り縁、柱、床などを汚さないために、マスキングテープで養生してください。
- ②浮いているところはケレンなどで剥がしてください。
- ③表面についた埃は、刷毛やブラシで落としてください。
- ④ケレンで剥がした部分・クラック等は、硬めに練った〈MKプラスター〉で補修し、乾燥させてください。クラックが発生している場合は全面に寒冷紗を貼り付けてください。

3 下地処理

〈MKプラスター プラス〉を全面に塗り付け、鏝むらを取り平滑に仕上げてください（塗り厚は1mm程度）。

□〈MKプラスター プラス〉にはアク・シミ止め機能があるため、アク止めシーラー塗布は必要ありません。

乾燥養生（しっかり乾燥させてから次の工程に進んでください。中1日置いた方が吸水がよくなります）

4 上塗り施工

- ①〈MKプラスター プラス〉が完全乾燥後、バリ（凸部）や塗が残しが無いことを確認してください。
- ②〈村様の現代しっくい〉を適量鏝板に取り、一度しごき塗り後、追っかけで所定の厚みに塗り付けてください。

[パターン仕上げ]

塗り付け直後もしくは配り塗りしながら、パターン付けを行ってください。



施工上の注意

【はじめに】

- 施工中および翌日の気温が5℃以下になる場合は施工を中止してください（白華の原因になります）。
- 採暖する場合、石油ストーブは避け電気ストーブを利用してください（化石燃料による採暖では壁が黄変する恐れがあります）。

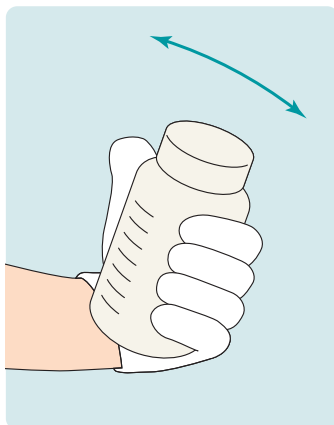
【下塗り時の注意】

- 釘などで錆びの恐れがある箇所は、錆び止めを行ってください。

【上塗り時の注意】

- ペール缶開封の際は、指などを怪我しないよう十分注意してください。
- 施工中は周辺の部材（見切り、廻り縁、巾木、床、柱等）を汚さないよう養生資材で適切な処置を行ってください（本製品はアルカリ性のため、特に赤身の木材についてはアクが発生しやすくなっており、注意が必要です）。
- 施工中は通風を避けてください。
- 〈村樫の現代しゅくい〉を使用の際、3分程度3枚羽ミキサーで必ず攪拌してください。
- 若干の加水は可能ですが、クラックが発生しやすくなるので極力お控えください。
- 着色する場合は必ず専用の液体顔料をご使用ください。
- 専用の液体顔料はよく振って、全量使い切ってください。攪拌は3枚羽ミキサーで8分以上行い、ペール缶底部までしっかり練りこんでください。
- 鏝の当たる回数の違いにより、色むらが出ることがあります。
- 同一壁面での塗り継ぎは避けてください。

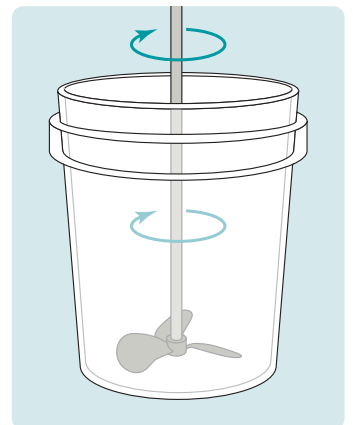
液体顔料の使い方



① 顔料ボトルをよく振ってください。



② 全量を投入してください。



③ 底部までしっかりとミキサーを当て、十分に練り込んでください。

〔施工後の注意〕

- 使用後の器具は水で洗浄してください。
- 残った場合は空気に触れないよう密封し、冷暗所にて保存してください。再度使用できます。
- 施工条件によっては、塗り付け直後、塗膜に気泡が発生することがあります。発生した気泡をそのままにしますと仕上げに影響を及ぼしますので、気泡に鏝の角などを当てるなどして空気を抜く要領で潰してください。
- 施工後はできるだけ通風に配慮し、自然乾燥を行ってください。エアコンによる急激な乾燥は、ひび割れの原因になりますので避けてください。
- 本製品は硬化するまでに時間を要します。夏季で3日間、冬季で一週間が目安となります。
- 施工直後の色と乾燥後の色では、色味が異なり、乾燥に伴ない淡くなります（事前にパンフレット、色見本等で確認をお願いします）。
- 本製品は100%天然素材を使用していますので、乾きむらによる変色が起こる場合があります。十分ご理解のうえご採用ください。

〈ご使用製品一覧〉



村檜の現代しっくい

現代の建物や住宅にフィットした
練りしっくい



MK プラスター

しっくい専用下地処理材



MK プラスター プラス

アク・シミ止め機能を持った
しっくい専用下地処理材



MK 目地材

石膏ボードの目地処理材



創業安政元年
村檜石灰工業株式会社

〈特約代理店〉

〈建材事業部〉

〒327-0509 栃木県佐野市宮下町1-10
tel 0283-86-3677 fax 0283-86-4118
kenzai@murakashi.co.jp
<https://www.murakashi.co.jp>

村檜しっくい
channel
YouTube

